

「3月度研修会(キャリアフランセミナー)」報告

修習技術者支援委員会 委員補佐
後藤 充弘 修習技術者(電気電子部門)

1. 研修会概要

日 時 平成28年3月12日（土）
10:00～20:00
主 催 公益社団法人日本技術士会
修習技術者支援委員会
会 場 日本技術士会葺手第二ビル5階

2. 研修会の内容

開会挨拶	10:00～10:05
修習委員会委員長	川村 智
セミナーの概要説明	10:05～10:20
司会 修習委員会委員	横井 弘文
講演1 「技術士になるために必要なキャリア」	10:20～10:50
講師 技術士	福田 敏博 氏
講演2 「先輩技術士の事例紹介」	10:50～12:00
事例① 技術士	亀高 正徳 氏
事例② 技術士	末廣 多恵子 氏
事例③ 技術士	小野寺 純氏
昼食	12:00～13:00
グループ討議の説明	13:00～13:10
グループ討議 「技術士になるためのキャリアプラン」	13:10～17:00
グループ討議結果の発表 質疑応答・アドバイス	17:00～18:00
講評	18:00～18:05
修習委員会副委員長	石附 尚志
閉会にあたって	18:05～18:10
情報交流会準備	18:10～18:25
情報交流会	18:25～20:00

3. 研修会の参加者

研修会の事前申込者は26名で、当日の実際の参加者は20名であった。アンケート結果からは、多くは第一次試験合格者の立場であった。居住地は8都県に渡り、東京都と神

奈川県が多く、遠方では宮城県、新潟県からの参加者がいた。部門別では7部門からの参加があり、電気電子部門が特に多かった。年齢は20代から50代以上まで方寄りが少なかった。男女構成では若いグループに2名の女性の参加があった。

4. 開会挨拶とセミナーの概要説明

川村委員長の開会挨拶に続いて、司会の横井委員が本セミナーの概要を説明した。

グループ構成は、A班～D班の4班とし、原則A班から年齢の若い順に割り振る形とした。

キャリアプランの中で技術士に求められる資質能力は①マネジメント、②専門的知識、③評価、④リーダーシップ、⑤問題解決、⑥コミュニケーション、⑦技術者倫理、の7項目とした。



写真1：川村委員長



写真2：横井委員（司会）

5. 講演1

経営工学部門の技術士である福田敏博氏が「技術士になるために必要なキャリア」と題して講演を行った。

福田氏はJ T関連会社に勤務すると同時に、CSMS認証アドバイザーやITCイースト東京理事を努めている。多くの講演もこなし、「スライドさばきの達人」との異名もあるそうである。また、最近では「工場・プラントのサイバー攻撃への対策と課題がよ～くわかる本」の著作がある。

技術士と中小企業診断士の比較、必要なキャリアに正解や法則性は無いといったこと、福田氏のキャリアの説明を行った。

福田氏は自身が独立コンサルタントとしてやっていく場合、ポジショニングやブランディングが重要である旨を述べた。顧客に発見を提供するコンサルティングスタイルを目指しているそうである。



写真3：福田講師

6. 講演2

事例①：電気電子及び情報工学部門の技術士である亀高正徳氏が事例紹介を行った。

亀高氏は無線に熱中した少年時代からその延長で大学では通信工学を学んだ。学生時代から通信関連の各資格を取得し、電気通信会社へ就職した経緯を語った。会社の先輩による誘いをきっかけに技術士資格を取得した。他の資格と技術士資格の異なる点として、技術士にはふさわしい業務経験が必要であることを取り上げた。

事例②：衛生工学部門の技術士である末廣多恵子氏が事例紹介を行った。

末廣氏は①自分の仕事を幅広い視点でも考える、②目標を同じくする仲間を作る、③“技術士”は単なる資格であることを認識する、といったことを自身の経験に即して説明した。



写真5：末廣講師

事例③：生物工学部門の技術士である小野寺純氏が事例紹介を行った。

小野寺氏は「サバイブ」というキーワードを中心に自身のキャリア論を語った。博士課程期、ポスドク期、就職活動期における気づき、技術士を含めたさまざまな資格を取得してきた経緯などを紹介した。

現在でも知識や経験の不足を感じており、今後も加速度的「サバイブ」力を身に着けていきたいとのことである。



写真 6：小野寺講師



写真 8：グループ討議風景

7. 昼食

それぞれのグループに本日の講師らがコーディネーターとして加わり、グループごとに、昼食をとった。この時間を利用して、各グループ内で、自己紹介や役割分担を行った。



写真 7：昼食風景

8. グループ討議の説明

司会の横井委員がグループ討議の進め方を説明し、グループ討議を開始した。

9. グループ討議

各班、ホワイトボードや付箋を活用していた。初めの方では座って討議するものの、後半の方になると、立っての討論となる様子が伺われた。

10. グループ討議の発表、質疑応答・アドバイス

1枚以上の発表用模造紙を用意し、A班からアルファベット順で発表を行った。

①A班：第二次試験までにはまだ時間を要する人が多く、現状でどのように修習時期を過ごすかという視点が目立った。



写真 9：A班

②B班：時間軸を現在、第二次試験に向けて、独立に向けてと3つのステップに分けて説明した。独立を意識した視点が目立った。

③C班：現実、ギャップ、各自のロードマップの3つの視点で7つの資質能力を分析した。第二次試験合格者が2名おり、中心的役割を果たしていた。

④D班：この班だけが担当を紹介して、内容を説明した。経験豊富なメンバーが多いだけあってか、実際の経験に基づいた感があった。各自のプランとして今年や来年の受験を明確にしたもののが目立った。



写真 10 : B班



写真 11 : C班



写真 12 : D班

11. 講評

各グループの発表を通して世代間の違いを感じたとのことである。また、技術士資格取得はあくまでもスタートだということを意識してほしい旨を述べて締めくくった。



写真 13 : 石附副委員長

12. 閉会にあたって

アンケート提出要請、今後の修習委員会行事予定等をお知らせし、研修会の閉会とした。

13. 情報交流会

受講生及びスタッフ有志の参加で情報交流会を行った。今年の第二次試験合格者の経験談などがあった。



写真 14 : 交流会風景

以上